

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAa001		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

心理学の入門講座 ( 心理専門科目の基礎 ) として、人間の行動と「心」を科学的に理解する態度と視座を身につける。

### 科目の概要

物理学が「物」の理を探究するのに対して、心理学は「心」の理を探究する学問です。

では、その「心」とは何を指し、どのようにして理を探究するのでしょうか？

前半は「脳と心」をテーマに、心理学的な現象を観察したり、実験に参加してもらい、自らの体験を通して、人間の反応や行動の特徴を学ぶと同時に、その現象が起きるメカニズムについて学びます。

後半は「心と適応」をテーマに、心理テストや思考トレーニングを行い、人間の社会適応・不適応のメカニズムを学ぶと同時に、コミュニケーションのあり方など「心理学と日常生活の関わり」を実践的に学びます。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

人間科学としての「実証的な心理学」に対する理解を深めること、また、興味・関心をもった心理学的現象を受講者自ら ( 卒業研究などで ) 探究・追究できるようになる力を養うこと、を目指します。

## 内容

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

- 1 心理学とは
- 2 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 3 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 4 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 5 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 6 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 7 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 8 発達と認知 - 発達とは
- 9 発達と認知 - 育み合う心
- 10 情報と思考 - 推論とは
- 11 情報と思考 - 原因を考える
- 12 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 13 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 14 社会的行動 - 適応と不適応
- 15 まとめ

## 評価

中間テスト（2回、計50点）、期末試験（1回、計50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 参考図書・推薦図書と併せて、授業のなかで適宜図書を紹介する。

科目名	発達心理学概論		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング	KAa002		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

- 1.科目の性格：発達心理学的研究方法論の基礎を理解する。
- 2.科目の概要：言語と認識の関わりからの視点から、5つのトピックをとりあげ、人間発達過程について理解する。  
人間発達の可塑性、言語・認知の発達、想像力の発達、読み書き能力の発達、子ども理解
- 3.学修目標：子どもの発達、言語と認識の関係について、自分なりのイメージを描けるようになること。発達心理学の方法論について理解すること。

## 内容

1	ことばと人間 人間になること：ヒト～人への進化史をたどり、言語と意識の起源を探る
2	世界認識の開始：世界認識の成立過程
3	象徴機能の発生過程：象徴機能の発生とことばの獲得
4	ことばの意味の広がり：身振り・発生の統合から意味あることばの獲得の過程
5	言語発達：何がことばの学習に制約を与えるか
6	助数詞の獲得：助数詞の獲得過程の文化差
7	会話行動の発達：会話構造のスタイルの成立過程
8	第二言語の学習：言語発達の生物学的基盤
9	小学校英語の教科化：早期英語活動（学習）の導入の意味と意義
10	ことばが遅滞するとき：児童虐待の社会的背景
11	ことばが遅滞するとき：児童虐待からの再生・支援の原則
12	想像力の発達：子どものウソは『嘘』か？ 語り・想起・共同構成のメカニズムから
13	読み書き能力の獲得：学力格差は幼児期から始まるか
14	読み書き能力の獲得：学校経験の意味と意義
15	書くことによる認識の発達：書くこと・考えること・生きること

## 評価

毎回の3分間振り返り作文（30%）と テストレポート課題（70%）とし、総合評価点60点以上を合格とする。

## 授業外学習

- 【事前予習】受講者はテキストの授業でとりあげる章を読み、問題点や疑問をノートに書き出しておく。
- 【事後学修】その日とりあげたテキストの該当章を読み返し、授業で配布した講義レジュメを参照しながら学びの振り返りをする。事前予習時に記した問題点や疑問に回答しておく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：内田伸子著 発達心理学—ことばの獲得と教育— 岩波書店 2002

推薦書：藤永 保・斎賀久敬・春日 喬・内田伸子 人間発達と初期環境 有斐閣 1987

- 内田伸子 子どもの文章－書くこと・考えること 東京大学出版会 1990
- 内田伸子 言語発達心理学 放送大学教育振興会 1998
- 内田伸子 想像力－創造の泉をさぐる－ 講談社 1994

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

生涯発達科目 専門科目

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。身体・認知・情緒などの諸側面から発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深め、臨床や実践活動のための基礎知識を身につけることを目標とする。また、生まれたばかりの状態から「人になっていく」過程を知ることによって、乳幼児期が人の一生のなかでどのような意味をもつのか考えるきっかけとなることを目指す。講義形式の授業とするが、適宜映像視聴や小レポートを実施する。

学修目標

- ・乳幼児期の身体発達について説明できる
- ・乳幼児期の知覚と認知の発達について説明できる
- ・乳幼児と養育者の関係の発達について説明できる
- ・幼児期の仲間関係や社会性の発達について説明できる

内容

1	乳幼児期とは
2	新生児の能力
3	身体・運動の発達
4	乳児期の認知発達
5	幼児期の認知発達
6	個性の発生
7	「自己」への気づき
8	愛着と親子関係
9	愛着と親子関係
10	他者との関係の発達
11	情緒と感情の発達
12	言語とコミュニケーションの発達
13	遊びの発達と集団生活
14	年齢別の発達の様相
15	まとめ

評価

平常点10点、授業時の小テスト・小レポート30点、期末試験60点。合格点60点。

## 授業外学習

【事前予習】取り上げるテキストの内容を事前に読み、疑問点などをまとめておく

【事後学修】テキストを見直しながら、小テストへの取り組みを行ったり、授業内容の振りかえりを行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

[推薦書] 柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房

科目名	児童期の心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAa204		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 【科目の性格】

本科目は、人間発達心理学科の専門科目である。生涯発達領域の「乳幼児期の心理学」や「青年期の心理学」「中高年期の心理学」などと関連が強い。児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面からとらえると共に、学童期の最も重要な側面として社会性育成の視点について理解を深める。

#### 【科目の概要】

自己概念や道徳性の発達過程、遊びや仲間関係の発達・変化など、児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面について学ぶ。また同時に、児童虐待や発達障害など、児童期の子どもたちに特徴的な問題についても取り上げ、児童への幅広い考察をねらいとする。

#### 【学修目標】

児童期の心理を理解するための基本的な枠組みを身につける。

将来、子どもに関わる職業に就く学生や将来子どもを持つ学生が、自身の子ども観を再認識し、知識を深める。

本科目は「こどもサポーター（こころの支援）」資格要件科目です。

### 内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	イントロダクション～児童期の特徴
2	児童期を取り巻く発達理論
3	児童の心の理解 認知・言葉の発達
4	児童の心の理解 自己意識と自尊感情
5	児童の心の理解 セルフコントロールとレジリエンス
6	児童の心の理解 道徳性の発達
7	児童の心の理解 仲間関係の発達
8	児童の心の理解 社会的行動の発達
9	児童の心の理解 性役割の獲得とアイデンティティ
10	児童期を取り巻く問題 地域社会の変容と子ども
11	児童期の問題 児童虐待とは
12	児童期の問題 発達障害の理解
13	児童期の問題 不登校とは何か
14	児童への援助～子どもに寄り添うとは
15	まとめ

### 評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】事前にキーワードを調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】桜井茂男[ほか]著 『子どものこころ 児童心理学入門』 有斐閣アルマ 2003

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	青年期の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAa205		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は人間発達心理学科の専門科目であり生涯発達領域の必修科目である。人間の発達段階の内、青年期に焦点をあてる。1年次の発達心理学概論が基礎となる。乳幼児期の心理学、児童期の心理学とあわせて学習することで人間が成人するまでの発達段階を詳しく理解することができる。

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、急激な身体的変化や認知能力の発達によって、多くの者が、それまで気がつかなかった自分自身のことや、人間関係、社会との関わりについて深く考え、ときに思い悩むようになる。青年期には何が起るのか、青年期とは私たちにとってどのような意味を持っているのか。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。

青年期について理解を深めることはもちろんであるが、青年期の最中にある受講生諸君にとって、講義内容を自分自身の問題としてとらえ自ら考える契機と成ることも目標とする。

内容

1	ガイダンス：授業の概要
2	青年期とは
3	青年心理学の成立
4	青年心理学の研究手法
5	大人になること
6	青年期の身体的変化
7	青年期の自己(1)自己理解・自尊感情
8	青年期の自己(2)アイデンティティ
9	性役割
10	理解度の確認
11	将来決定(1)：職業興味検査
12	将来決定(2)：進路決定と職業
13	青年期の人間関係
14	青年期の感情
15	まとめ

評価

期末テスト60点+中間テスト30点+授業内の課題10点とする。60点以上を合格とし、達しない場合再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、予習してくる。

【事後学修】授業内容についてノートを整理し復習をする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	心理学基礎論		
担当教員名	石田 有理、加藤 陽子、山下 倫実		
ナンバリング	KAa208		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

生涯発達科目 専門科目

科目の概要

心理学には幅広い領域があり、社会における様々な場面で活用されている。日本心理学諸学会連合は、多くの領域をわかりやすくまとめた10領域からなる「心理学検定」を年1回実施している。10領域のなかでも、基礎的なA領域のうち3科目において、各領域で何を学ぶかを理解し、知識と理解を深める。取り上げる科目は、「発達・教育」「社会・感情・性格」「臨床・障害」の3科目である。各領域における重要なキーワードを学び、模擬問題に取り組みながら、心理学検定2級合格をめざす。

学修目標 ( = 到達目標 )

心理学における基本的な領域がどのようなものを学ぶ

各領域における基礎的な知識を得る

内容

1	ガイダンス：心理学における領域とは
2	発達
3	発達
4	臨床
5	臨床
6	社会
7	社会
8	中間まとめ
9	教育
10	教育
11	障害
12	障害
13	感情・性格
14	感情・性格
15	まとめ

評価

授業への参加度10% 中間試験40% 期末試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】模擬問題への回答

【事後学修】キーワードや概念の整理

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】心理学検定 公式問題集

【推薦書】心理学検定 基本キーワード

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb109		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

#### 科目の概要

臨床心理学とは一体何か。それはこころの問題に対して、心理学的な援助を行うための学問である。しかし、こころとは一体何で、そして心理学的な援助とは一体何だろうか。本授業では臨床心理学の全般的な知識を学ぶと同時に、それが時代の変化と深く関わってきたことを取り上げる。最終的には、現代にあって臨床心理学とは一体何かを理解することが目指される。

#### 学修目標 (= 到達目標)

臨床心理学が時代の中でどのように発展してきたのかを理解することで、この学問がどのような性質の学問であり、この学問を学ぶことにはいかなる意義があるのかを理解する。

内容	
1	イントロダクション 現代の臨床心理学
2	夜明け前の臨床心理学 シャーマン・狐憑き・精神医学
3	フロイトの精神分析 無意識の発見
4	フロイトの精神分析 転移の発見
5	「理想の時代」のロジャース 高度成長期の臨床心理学
6	関係すること カウンセリング・マインドの展開
7	ロジャースを知る
8	「虚構の時代」の河合隼雄
9	箱庭療法と心理学すること
10	ユング心理学入門
11	「動物の時代」の臨床心理学 文化の問題
12	認知行動療法入門 動物とコンピューターの心理学
13	対象関係論 赤ん坊の心理学
14	臨床心理学と非臨床心理学
15	まとめ

#### 評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】適宜指示する

【参考図書】適宜指示する

科目名	発達臨床心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

本科目は、これまで学んできた発達理論、発達研究を実際の発達支援に生かすための応用力を培うための科目です。

科目の概要：

出生前から高齢期にいたる各ライフステージにおける発達とその支援について学習します。また、精神疾患の基礎知識、発達障害の基礎知識などについて受講者とともに考えていく予定です。

学修目標：

1. 各ライフステージにおける発達とその支援について理解する。
2. 精神疾患の基礎知識を学ぶ。
3. 発達障害の基礎知識を学ぶ。

#### 内容

1. オリエンテーション
2. 発達臨床心理学とは
3. 胎生期～新生児期における発達とその支援
4. 乳児期における発達とその支援
5. 幼児期における発達とその支援
6. 児童期における発達とその支援
7. 青年期における発達とその支援
8. 成人期における発達とその支援
9. 高齢期における発達とその支援
10. 精神疾患 (1)障害とは (2)精神疾患とは
11. 発達障害 (1)発達障害とは (2)代表的な発達障害
12. グループ発表 (1)
13. グループ発表 (2)
14. グループ発表 (3)
15. まとめ

#### 評価

100点満点中、日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が100点満点中60点に満たない場合には、不合格となります。

#### 授業外学習

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読んでおいてください。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に基づいて、講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	カウニング理論		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAb111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は必修科目である。カウニングとはある人が抱える問題や悩みに対して、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助のことである。したがって、この科目を学ぶことは、自他問わずメンタルヘルス対策につながる可能性がある。また、2年次に学ぶカウニングの基礎 ( 技法 ) の礎となる重要な科目でもある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な解決方法のひとつにカウニングがある。その基礎基本となり、支える諸理論 ( 精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等 ) を専門的に学ぶ。

学修目標

カウニングとはいかなるものかを事例やロールプレイなどの体験を通して、その知識や理解を深める。とくに、ロールプレイは実践的に学ぶうえで欠かせなく、体験的に授業を進めるために、積極性や協調性などが身につく。また、心理的問題や悩みなどの解決方法も身につくので、日常生活などでの活用が深まる。したがって、授業では他者への積極的関与を意識し学修することが求められる。

内容	
1	はじめに
2	カウニングとは ( 歴史、語源、定義等 )
3	カウニングと心理療法の異同
4	カウニングを支える代表的な理論 ( 精神分析的カウニング ) ( 1 )
5	カウニングを支える代表的な理論 ( 精神分析的カウニング ) ( 2 )
6	カウニングを支える代表的な理論 ( 認知行動カウニング ) ( 1 )
7	カウニングを支える代表的な理論 ( 認知行動カウニング ) ( 2 )
8	カウニングを支える代表的な理論 ( 来談者中心カウニング ) ( 1 )
9	カウニングを支える代表的な理論 ( 来談者中心カウニング ) ( 2 )
10	プロセスとしてのカウニング ( カウニングマインド、信頼関係の構築 )
11	心理アセスメントの方法
12	カウンセラーに必要な知識と技術 ( 傾聴、受容、共感 )
13	その他のカウニングの諸理論及び展開例
14	カウニングの事例から学ぶ
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への解答や授業中の態度や姿勢（30%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上の出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】次回行う授業場面を想定し、1時間程度は使用するテキストをしっかりと読み込むこと。

【事後学修】ノートなど活用し、毎時間に学習したことを1時間程度は各自で整理しておくことが望ましい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）「物語から考えるカウンセリングの基礎 その理論と技法」

エース出版、著者（柏葉修治）

（推薦書）「よくわかる 心理学（心の謎にせまる）」 池田書店（著者）尾形佳晃

（参考図書） 教室で紹介する

科目名	カウンセリング理論		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAb111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は必修科目である。カウンセリングとはある人が抱える問題や悩みに対して、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助のことである。したがって、この科目を学ぶことは、自他問わずメンタルヘルス対策につながる可能性がある。また、2年次に学ぶカウンセリングの基礎（技法）の礎となる重要な科目でもある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な解決方法のひとつにカウンセリングがある。その基礎基本となり、支える諸理論（精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等）を専門的に学ぶ。

学修目標

カウンセリングとはいかなるものかを事例やロールプレイなどの体験を通して、その知識や理解を深める。とくに、ロールプレイは実践的に学ぶうえで欠かせなく、体験的に授業を進めるために、積極性や協調性などが身につく。また、心理的問題や悩みなどの解決方法も身につくので、日常生活などでの活用が深まる。したがって、授業では他者への積極的関与を意識し学修することが求められる。

内容	
1	はじめに
2	カウンセリングとは(歴史、語源、定義等)
3	カウンセリングと心理療法の異同
4	カウンセリングを支える代表的な理論(精神分析的カウンセリング)(1)
5	カウンセリングを支える代表的な理論(精神分析的カウンセリング)(2)
6	カウンセリングを支える代表的な理論(認知行動カウンセリング)(1)
7	カウンセリングを支える代表的な理論(認知行動カウンセリング)(2)
8	カウンセリングを支える代表的な理論(来談者中心カウンセリング)(1)
9	カウンセリングを支える代表的な理論(来談者中心カウンセリング)(2)
10	プロセスとしてのカウンセリング(カウンセリングマインド、信頼関係の構築)
11	心理アセスメントの方法
12	カウンセラーに必要な知識と技術(傾聴、受容、共感)
13	その他のカウンセリングの諸理論及び展開例
14	カウンセリングの事例から学ぶ
15	まとめ

授業中に課す課題への解答や授業中の態度や姿勢（30%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上の出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】次回行う授業場面を想定し、1時間程度は使用するテキストをしっかりと読み込むこと。

【事後学修】ノートなど活用し、毎時間に学習したことを1時間程度は各自で整理しておくことが望ましい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）「物語から考えるカウンセリングの基礎 その理論と技法」

エース出版、著者（柏葉修治）

（推薦書）「よくわかる 心理学（心の謎にせまる）」 池田書店（著者）尾形佳晃

（参考図書） 教室で紹介する

科目名	<b>精神病理学</b>		
担当教員名	小原 美樹		
ナンバリング	KAb312		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科2年次の選択科目のひとつである。

科目の概要

精神医学の歴史、精神病理学の主要な理論を概観するとともに、精神医療現場で日常的に出会う主な疾患である統合失調症、気分障害（うつ病性障害、双極性障害）、不安障害などの特徴を理解する。またそれらの心の病を抱える人々にとって必要とされる心理社会的支援について紹介する。

学修目標（=到達目標）

代表的な精神疾患の基礎知識を学び、心を病むとはどのようなことなのかを考察し、私たち人間の心の働きについての理解を深める。

内容

3日間で以下の内容を学習する。

- ・心の病の歴史
- ・精神病理学の誕生経緯と主要な理論
- ・各精神疾患の基礎知識
- ・心を病む人々への心理社会的支援

評価

授業への参加度30%、授業内のテスト30%、最終日に課す小レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】特になし
- 【事後学修】特になし

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】特になし
- 【推薦書】小俣和一郎「精神医学の歴史」
- 【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	<b>精神保健</b>		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb313		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する全般的な知識を得ることを目的とします。

#### 科目の概要

「心の健康と病理とは一体何か」を大きな問いにしながら、現代社会における心の病について考えていきます。各心の病についての知識を深めるとともに、実際の臨床現場でそのような知識をどのように生かしていくのかを具体的な事例と共に学んでいきたいと思ひます。

#### 学修目標（＝到達目標）

精神保健の対象について縦断的および横断的に理解する。

授業で学んだ内容について、自分なりの活かし方を習得する。

#### 内容

1	イントロダクション 授業の取り決め
2	文化の中の精神保健
3	心理学理論と精神保健
4	発達と精神保健
5	病態水準論
6	神経症
7	精神病 - 統合失調症
8	精神病 うつ
9	人格障害 1
10	人格障害 2
11	発達障害
12	精神保健を実践する
13	精神保健を実践する
14	精神保健を実践する
15	まとめ

#### 評価

各回のレポートが20点、テストが80点とし、総合評価60点以上を合格とする。

ただし、事例発表を行った者には30点を予め付与する。

## 授業外学習

【事前準備】発表を行う者は事例のまとめ

【事後学修】関連文献を読んでくる

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特になし。適宜推薦する

科目名	乳幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 1. 科目の性格 :

本科目は、これまで学んできた発達心理学や教育心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。

##### 2. 科目の目標 :

乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。

##### 3. 学修目標 :

- (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題についての理解。
- (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題の理解。
- (3) 発達の支援に関する理解。

#### 内容

1. オリエンテーション
2. 発達とは 発達の課題とは
3. 発達の基礎理論
4. 胎生期～周産期の心理臨床
5. 新生児期の心理臨床
6. 乳児期の心理臨床 (1)
7. 乳児期の心理臨床 (2)
8. 幼児期の心理臨床 (1)
9. 幼児期の心理臨床 (2)
10. 幼児期の心理臨床 (3)
11. グループ発表
12. グループ発表
13. グループ発表
14. 発達の支援
15. まとめ

#### 評価

100点満点中、授業への参加度 ( 課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など ) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが100点満点中60点に満たない場合は、不合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書該当部分を予め読んでおいてください。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に基づいて、講義の復習をしてください。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著（2015）『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	児童期から青年期の心理臨床		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAb315		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 人間発達心理学科 ( KC )		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

学科専門科目で心理臨床領域の科目である。主に、児童・青年期における精神面の発達上の問題 ( 問題行動や不適応、精神的疾患など ) について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援方法などを深める。「児童期の心理学」「青年期の心理学」などと関わりが深い。

ピアヘルパー取得要件科目 ( 領域 ) にあたる。

#### 科目の概要

心身の変化が大きい児童期から青年期という時期に、子どもたちがどのような心理的状态にあり、どのような問題に直面するのかを学ぶ。また、問題行動や症状を呈している子どもおよびその家族に対して、専門的な知識をもちかつ訓練を受けた者が、どのように関わりを重視しつつ支援活動を行うのかということについても学んでいく予定である。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

児童期・青年期の子どもたちが直面するさまざまな心理的問題の理解とその対応について、たとえば、発達障害やいじめ問題、不登校等の問題について、事例を通してその知識と理解を深める。

したがって、日頃から新聞やニュース等で関連のある出来事について意識しておくことが望ましい。

#### 内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	はじめに
2	児童期・青年期の特徴
3	「大人になる」ことのむずかしさ
4	非行の心理臨床
5	不登校とその支援
6	ひきこもりと支援
7	性・ジェンダー
8	ボディイメージと自己
9	文化的アイデンティティと自己
10	メディアとコミュニケーション
11	児童期・青年期の心理臨床：事例 ( 男性 )
12	児童期・青年期の心理臨床：事例 ( 女性 )
13	児童期・青年期の心理療法 ( 1 )
14	児童期・青年期の心理療法 ( 2 )
15	まとめ

## 評価

授業に取り組む姿勢や態度と課題（30%）、筆記試験（70%）、2 / 3 以上の出席を必須とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】1時間程度は、使用するテキストをきちんと読んでおくこと。

【事後学修】1時間以上は、毎回授業で活用するノートを整理しておくこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「思春期・青年期の心理臨床」 佐藤仁美・西村善文 放送大学教育振興会 2013

【推薦書】「思春期・青年期臨床心理学（朝倉心理学講座16）」伊藤美奈子編著 朝倉書店 2006

【参考図書】教室で紹介する

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

##### 科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

##### 学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

#### 内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

#### 評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

- 【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること
- 【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

##### 科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

##### 学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

#### 内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

#### 評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

##### 科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

##### 学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

#### 内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

#### 評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

#### 科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

#### 学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

#### 内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

#### 評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

### 科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究 (主に卒業研究) を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

### 学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

## 内容

予定する講義内容は以下の通りである (キーワードのみ示す) ;

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心理学の歴史その1：哲学からの分離。ヴントとジェームズ
3. 心理学の歴史その2：行動主義と動機づけからみる分野の発展。
4. 調査・質問紙法その1：質的研究と量的研究。相関仮説と構成概念。測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成。縦断研究と横断研究。妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法。「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念。行動指標と生理指標。尺度の4種類
8. 実験法その2：実験計画。統制条件。1要因と2要因。参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法。下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法。観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究、実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法、実験、観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える。自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. まとめと総括：果たして心は測れるのか？

## 評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格

とする。

#### 授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2) 理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

### 科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究 (主に卒業研究) を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

### 学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

## 内容

予定する講義内容は以下の通りである (キーワードのみ示す) ;

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心理学の歴史その1：哲学からの分離。ヴントとジェームズ
3. 心理学の歴史その2：行動主義と動機づけからみる分野の発展。
4. 調査・質問紙法その1：質的研究と量的研究。相関仮説と構成概念。測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成。縦断研究と横断研究。妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法。「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念。行動指標と生理指標。尺度の4種類
8. 実験法その2：実験計画。統制条件。1要因と2要因。参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法。下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法。観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究、実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法、実験、観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える。自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. まとめと総括：果たして心は測れるのか？

## 評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格

とする。

#### 授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2) 理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc024		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎を身につける。卒業研究までの多くの専門科目において基礎となる事項を学ぶ。

### 科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

### 学修目標

統計手法の実践力を身につけること、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力を学ぶことが目標である。ほぼ毎回宿題を課すので確実に解答すること。

## 内容

- 1 . ガイダンス、心理統計法の意義
- 2 . 心理データの測定と尺度
- 3 . 度数分布
- 4 . 統計図表 ( 質的変数の図示法、量的変数の図示法 )
- 5 . 代表値 ( 平均値、中央値、最頻値 )
- 6 . 散布度 ( 分散と標準偏差、範囲、四分領域 )
- 7 . 正規分布と相対的位置
- 8 . 2 変数間の相関、線形回帰
- 9 . 2 つの平均の比較 ( t 検定 )
- 10 . クロス集計
- 11 . 2 乗検定と連関係数
- 12 . 3 つ以上の平均の比較 ( 分散分析 )
- 13 . 記述統計の確認
- 14 . 統計的検定の応用
- 15 . まとめ

## 評価

授業内課題の提出と出席は評価の前提条件である。

筆記試験（統計計算と検定が中心）を100点満点により評価を行う。  
所定の試験で合格に達しない場合は、夏期休業期間に再試験を行う。

#### 授業外学習

- 【事前準備】シラバスに基づいて、該当する教科書に目を通すこと
- 【事後学修】出題された課題（宿題）について、受講内容を確認しながら解答する

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房
- 【電卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること（毎時使用します）

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
4. 統計処理の基本 : 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
7. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
8. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう ( 相関係数 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう : 一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある? : 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実、奥村 基生		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
7. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう ( 相関係数 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある？：分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
4. 統計処理の基本 : 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
7. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
8. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう ( 相関係数 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう : 一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある? : 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実、奥村 基生		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
4. 統計処理の基本 : 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
7. 2項目間の偏りを調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
8. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう ( 相関係数 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう : 一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある? : 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理、綿井 雅康		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理、平田 智秋		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理、池田 まさみ		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5=100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理、風間 文明		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理、山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5=100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理アセスメント		
担当教員名	柏葉 修治、東畑 開人		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

#### 科目の概要

- ・心理アセスメントの説明：心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などを解説する。
- ・心理アセスメントの実施：実際に使用する器具や道具を用いながら、実習を行う。さらに、各アセスメントについて結果の整理の仕方や返却の注意点などについて学ぶ。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

#### 学修目標

- ・アセスメントという心理査定法の目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解できるようにする。

#### 内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

1) ガイダンス：心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

2) 実習：アセスメントの実施と結果の整理を行う。

取り上げる予定のアセスメントは、以下の通りである。

- ・ウェクスラー式知能検査
- ・新版K式発達検査
- ・バウムテスト
- ・PFスタディ・・・など

3) まとめ：アセスメントごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

\* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

\* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

\* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各アセスメントについての課題70点と平常点30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

## 授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直すしておくこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理アセスメント		
担当教員名	伊藤 恵子、石田 有理		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

#### 科目の概要

- ・心理アセスメントの説明：心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などを解説する。
- ・心理アセスメントの実施：実際に使用する器具や道具を用いながら、実習を行う。さらに、各アセスメントについて結果の整理の仕方や返却の注意点などについて学ぶ。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

#### 学修目標

- ・アセスメントという心理査定法の目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解できるようにする。

#### 内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

1) ガイダンス：心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

2) 実習：アセスメントの実施と結果の整理を行う。

取り上げる予定のアセスメントは、以下の通りである。

- ・ウェクスラー式知能検査
- ・新版K式発達検査
- ・バウムテスト
- ・PFスタディ・・・など

3) まとめ：アセスメントごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

\* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

\* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

\* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各アセスメントについての課題70点と平常点30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

## 授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直しておくこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理アセスメント		
担当教員名	加藤 陽子、中村 有		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

#### 科目の概要

- ・心理アセスメントの説明：心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などを解説する。
- ・心理アセスメントの実施：実際に使用する器具や道具を用いながら、実習を行う。さらに、各アセスメントについて結果の整理の仕方や返却の注意点などについて学ぶ。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

#### 学修目標

- ・アセスメントという心理査定法の目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解できるようにする。

#### 内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

1) ガイダンス：心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

2) 実習：アセスメントの実施と結果の整理を行う。

取り上げる予定のアセスメントは、以下の通りである。

- ・ウェクスラー式知能検査
- ・新版K式発達検査
- ・バウムテスト
- ・PFスタディ・・・など

3) まとめ：アセスメントごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

\* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

\* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

\* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各アセスメントについての課題70点と平常点30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

## 授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直しておくこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理学実験演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc329		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目。

心理学研究法のひとつに「実験」がある。その実験を作成する技法をいくつか（パワーポイントなど）を学ぶ。単に技法を習得するだけでなく、実験の刺激や課題の作成を通して、「実験デザイン」を理解すると同時に、研究を「論理的に組み立てる」力を身につけてほしい。

### 科目の概要

- 1）自ら実験参加者となって、さまざまな心理学実験（コンピュータ制御による実験）を体験する。
- 2）実験デザイン（刺激や課題の設定、データの収集法など）について学ぶ。
- 3）自ら作成した実験を用いて、データの収集、解析（SPSS）、考察を行う。

### 学修目標（＝到達目標）

- 1）「心理学実験」そのものに慣れ親しむ
- 2）「ものごとを論理的に考える・組み立てる力」を身につける
- 3）「心理学的な視点（問題・仮説を設定する力）」を身につける
- 4）「実験をデザインする力（科学的に検証する力）」を身につける

## 内容

授業は、ひとつの実験テーマにつき

3ステップ「実験に参加する」「データを分析する」「レポートにまとめる」を基本として進める。

受講者自ら実験参加者となり、さまざまな実験を体験しながら、実験研究のあり方を実践的に学ぶ。

同時に、コンピュータの基本的な操作から、実験プログラムの作成、データ解析の方法まで、順を追って、技法を丁寧に習得する。

受講者数および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更することがある。

## 評価

基礎課題の提出30点、応用課題の提出30点、実験レポート（発表含む）提出を40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】習得した「技法」を用いて課題を作成する

【事後学修】新たな「技法」を用いて課題を作成する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	心理学実験演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc329		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 人間発達心理学科 ( KC )		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

心理実験に関わる一通りの過程を実習する。

すなわち、(1)仮説をたて、(2)実験を計画し、(3)データを取り、(4)データを解析し、(5)報告書にまとめ、(6)口頭でも報告する。

これらは卒業研究の作成に必要な基礎知識でもある。

各自が卒業研究のテーマを見つけるきっかけにしたい。

### 科目の概要

5週を単位に3種類の実験を行う。

それぞれについて仮説をたて、データを取り、統計解析して、結果をレポートにまとめる。

### 学修目標

目標とするのは、(1)心理学的な問題設定の能力、(2)素データを見抜く眼力、(3)統計手法を用いたデータの吟味、そして(4)文章作成能力の涵養である。

これらを通じて人間の心の不思議な働きや、心理学実験の面白さを実感する。

## 内容

本演習では、自らが実験者および実験参加者となり、体験を通して、人間の情報処理のメカニズムを考えます。受講者および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更になることがあります。

- 0 1 . 心理学実験について ガイダンス
- 0 2 . 視知覚に関する実験：解説
- 0 3 . 視知覚に関する実験：測定
- 0 4 . 視知覚に関する実験：解析
- 0 5 . 注意に関する実験：解説
- 0 6 . 注意に関する実験：測定
- 0 7 . 注意に関する実験：解析
- 0 8 . 視知覚と注意に関する実験のまとめ ( グループでの発表 )
- 0 9 . デザインと印象評定：解説
- 1 0 . デザインと印象評定：測定
- 1 1 . デザインと印象評定：解析
- 1 2 . 記憶に関する実験：解説
- 1 3 . 記憶に関する実験：測定
- 1 4 . 記憶に関する実験：解析

## 15. 印象評定と記憶に関する実験のまとめ（グループでの発表）

### 評価

授業時の小課題30点、レポート課題50点、口頭発表20点の計100点で評価する。

### 授業外学習

【事前予習】前回実習での要点を復習し、続く実習での展開に備える

【事後学修】進度に応じた課題を出すので、自らの力で取り組む

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	調査法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

#### 科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

#### 学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

#### 内容

調査法に関する講義と心理尺度項目作成の実習を並行して行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、実際に調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 仮説の検討例 (相関分析、 $\chi^2$ 検定など)
14. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

## 評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

## 授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してくること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

\* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

### 科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

### 学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

## 内容

調査法に関する講義と心理尺度項目作成の実習を並行して行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、実際に調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 仮説の検討例 (相関分析、 $\chi^2$ 検定など)
14. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

## 評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

## 授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してくること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

\* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	面接法		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。心理学のデータ収集の技法には観察法、実験法、質問紙法などがあるが、面接法もそのなかのひとつである。本科目はとくにこの面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。

#### 科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 ( research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

#### 学修目標 (= 到達目標)

心理学におけるデータ収集法のひとつである「面接法」、とくに「調査的面接法」に対する興味・関心、そして理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指す。予定する講義内容は以下の通りである。

《注意》本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

内容	
1	調査的面接法とはなにか
2	調査的面接法の分類 - 構造化面接法、半構造化面接法、非構造化面接法
3	データ収集法の組み合わせ
4	調査的面接法のデザイン - 調査テーマ・調査目的・仮説・標題の決定
5	調査的面接法のデザイン - シナリオの作成
6	調査的面接法のガイドライン
7	相互信頼感形成の技法 - バランスのとれた相互信頼感 (ラポール)
8	面接 (インタビュー) の実体験 1
9	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 分類、動作学のスキル
10	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 周辺言語学のスキル、その他のスキル
11	面接 (インタビュー) の実体験 2
12	データ処理の技法 - エディティング、トランスクリプト作成
13	データ処理の技法 - コーディング、データ分析、M-GTA
14	調査対象者 (インフォーマント) の権利を守るために
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（35%）、発表内容（65%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

【推薦書】

【参考図書】

科目名	面接法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。心理学のデータ収集の技法には観察法、実験法、質問紙法などがあるが、面接法もそのなかのひとつである。本科目はとくにこの面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。

#### 科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 ( research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

心理学におけるデータ収集法のひとつである「面接法」、とくに「調査的面接法」に対する興味・関心、そして理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指す。

#### 内容

予定する講義内容は以下の通りである。

《注意》本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	調査的面接法とはなにか
2	調査的面接法の分類 - 構造化面接法、半構造化面接法、非構造化面接法
3	データ収集法の組み合わせ
4	調査的面接法のデザイン - 調査テーマ・調査目的・仮説・標題の決定
5	調査的面接法のデザイン - シナリオの作成
6	調査的面接法のガイドライン
7	相互信頼感形成の技法 - バランスのとれた相互信頼感 (ラポール)
8	面接(インタビュー)の実体験 1
9	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 分類、動作学のスキル
10	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 周辺言語学のスキル、その他のスキル
11	面接(インタビュー)の実体験 2
12	データ処理の技法 - エディティング、トランスクリプト作成
13	データ処理の技法 - コーディング、データ分析、M-GTA
14	調査対象者(インフォーマント)の権利を守るために
15	まとめ

## 評価

授業中の参加態度や提出物（35%）、発表内容（65%）により評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

科目名	<b>観察法</b>		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 人間発達心理学科 ( KC )		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

研究法，実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるようでいて、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 ( = 到達目標 )

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて，行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて，行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて，行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて，行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート ( 60% )、期末レポート ( 30% )、平常点 ( 10% ) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておいてください。

【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

研究法，実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるようでいて、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 ( = 到達目標 )

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基礎を学ぶ ( 1 )
3	観察の基礎を学ぶ ( 2 )
4	観察の基礎を学ぶ ( 3 )
5	映像の行動観察の記述を行う ( 1 )
6	映像の行動観察の記述を行う ( 2 )
7	観察法を用いて行動の分析を行う ( 1 )
8	観察法を用いて行動の分析を行う ( 2 )
9	映像の行動観察の記述を行う ( 1 )
10	映像の行動観察の記述を行う ( 2 )
11	観察法を用いて行動の分析を行う ( 1 )
12	観察法を用いて行動の分析を行う ( 2 )
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果の発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート ( 60% )、期末レポート ( 30% )、平常点 ( 10% ) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておいてください。

【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

##### 科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

##### 学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

#### 内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

#### 評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

適宜指示する

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

#### 科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

#### 内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

#### 評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	実験計画法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 人間発達心理学科 ( KC )		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

#### 科目の概要

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する ( 実験計画、要因統制、材料と課題の設定 ) 。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・「心理学実験」を具体的に経験する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

#### 内容

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	被験者内1要因実験 ( 1 ) 要因計画の理解と体験
4	被験者内1要因実験 ( 2 ) 材料と課題の作成
5	被験者内1要因実験 ( 3 ) 自作実験の実施とデータ集計
6	被験者内1要因実験 ( 4 ) データ解析と考察
7	被験者間1要因実験 ( 1 ) 要因計画の理解と体験
8	被験者間1要因実験 ( 2 ) 材料と課題の作成
9	被験者間1要因実験 ( 3 ) 自作実験の実施とデータ集計
10	被験者間1要因実験 ( 4 ) データ解析と考察
11	混合2要因実験 ( 1 ) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 ( 2 ) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 ( 3 ) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 ( 4 ) データ解析と考察
15	まとめ

## 評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み

【事後学修】授業内で行なった学習活動を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認すること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する。

科目名	実験計画法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目にはまず、卒研を書くゼミを選択する第一歩としての役割がある。

心理学の歴史の中で培われた「心を測る方法」を実習しながら、卒業研究で自らが知りたいことに近づく手段として、心理学実験が有効かどうかを吟味してほしい。

#### 科目の概要

ストループ効果を題材として、(1) 知りたいことを明確にし、(2) 仮説をたて、(3) 実験を計画し、(4) 実際にデータを取り、(5) 得られたデータを解析して、(6) 文章や口頭で報告する、といった実験心理学の過程を実習する。最終的にはクラスでひとつ、卒研に近い報告書を作成する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- ・自らの疑問について、仮説をたてられるようになる
- ・Rを使って、簡単な解析ができるようになる
- ・分かったことを文章や話し言葉で報告できるようになる

#### 内容

以下の内容を予定している。進度や理解度に応じて柔軟に内容を変更する予定である；

1. 考える練習・1：知りたいことは疑問文，仮説は肯定文
2. 考える練習・2：ストループ効果とその応用例の紹介。ストループ効果を使って何が分かるか
3. 考える練習・3：仮説をグラフにする。独立変数と従属変数
4. 考える練習・4：知りたいことの面白さを共有する
5. 実験計画・1：刺激の準備。教示，サンプル，反応の区分を設定する
6. 実験計画・2：予備実験。計画の見直し
7. 実験・1：実際にデータを取る（条件1）
8. 実験・2：実際にデータを取る（条件2）
9. 解析・1：Rで大きなデータを読み取る
10. 解析・2：Rでデータを並び替える
11. 解析・3：Rでデータをグラフ化する
12. 報告書作成・1：目的・方法・結果・考察，それぞれの役割
13. 報告書作成・2：客観的な文章を書く
14. 口頭発表・1：文章による報告と口頭発表の違い。
15. 口頭発表・2：口頭発表会

## 評価

毎回の授業でショートエッセイを課す。その内容を30%、平常点（考える態度や発想力）を20%、報告書の評価を50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前学習】日常生活における「当たり前」を見逃さず、疑問のタネを探す

【事後学習】毎回の授業で、簡単な課題を出す

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に無し。推薦書は適宜紹介する。

科目名	実験計画法		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

#### 科目の概要

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する ( 実験計画、要因統制、材料と課題の設定 ) 。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・「心理学実験」を具体的に経験する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

#### 内容

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 ( 1 ) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 ( 2 ) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 ( 3 ) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 ( 4 ) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 ( 1 ) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 ( 2 ) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 ( 3 ) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 ( 4 ) データ解析と考察
11	混合2要因実験 ( 1 ) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 ( 2 ) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 ( 3 ) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 ( 4 ) データ解析と考察
15	まとめ

## 評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み

【事後学修】授業内で行なった学習活動を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認すること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

##### 科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

##### 科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

##### 学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

#### 内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

#### 評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者（または担当者）から提出してもらう活動報告とともに、レポートや口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識／態度／技能を活用できるようにしておく

【事後学修】こどもたちとの関わりの具体的／表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察すること

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

##### 科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

##### 学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

#### 内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

#### 評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者（または担当者）から提出してもらう活動報告とともに、レポートや口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識／態度／技能を活用できるようにしておく

【事後学修】こどもたちとの関わりの具体的／表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察すること

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd138		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容	
1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60点 + 中間テスト30点 + 授業内の課題10点により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげる用語について、資料、テキスト等で調べ予習をしてくる。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd138		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容	
1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60点 + 中間テスト30点 + 授業内の課題10点により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげる用語について、資料、テキスト等で調べ予習をしてくる。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAd239		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

#### 科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

#### 学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

### 内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション ( 要請承諾・説得 )
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

### 評価

授業内の小課題10点、期末テスト90点、の計100点満点により評価を行う。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人関係の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAd340		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。1年次の社会心理学概論で学習した対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学、対人社会心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

対人関係領域の知識を身につけると共に、多彩な研究例から研究の考え方ややり方などの方法論についても理解を深め、受講生自身の問題意識の明確化に活かして欲しい。また受講を通して、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけにもなるとよい。

内容	
1	ガイダンス：対人魅力とは何か
2	好意をどのようにして測定する？
3	側にいる人を好きになる？好きな人の側にいたい！
4	美しい人を好きになる！美しい人に幻滅する！
5	美しく装って魅力を高める - 被服・化粧と対人魅力 -
6	人の心をひきつける性格
7	自分と似た態度を持つ人を好きになる！
8	能力が高い人は本当に好かれる？
9	中間テスト
10	魅力を高める自己開示・自己呈示
11	傷ついた時に側にいてくれる人を好きになる？
12	相手から好かれることの効果
13	環境条件と魅力の関連
14	対人関係の親密化～魅力が力を発揮する時
15	対人関係の進展と崩壊

評価

期末テスト70点+中間テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。出席については、2/3以上の出席が必要。満たさない場合には、単位は取得できない。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業のキーワードについて自分で調べて予習してくる

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd341		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

#### 内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

#### 評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

#### 授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	産業・組織心理学		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd342		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、産業場面、組織場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

#### 科目の概要

本科目では、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、リーダーシップ、職場のストレスなどを扱う。社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象について講義を行う。

#### 学修目標 (= 到達目標)

さまざまな心理学の知識を、産業、組織、働くという場面にどのように応用可能かを考えながら、産業・組織心理学について理解を深めることを目標とする。

#### 内容

1	産業・組織心理学とは何か? - ガイダンス -
2	ホーソン研究: 物理的環境か心理的要因か
3	作業に関わる心理学: 社会的手抜きと補償
4	仕事への動機づけ研究1: KJ法について
5	仕事への動機づけ研究2: 欲求階層・ERG理論
6	仕事への動機づけ研究3: 内発的動機・外発的動機
7	公正感と自発的行動
8	組織コミットメントと役割外行動(組織市民行動)
9	組織の中でのコミュニケーション: 集団分極化
10	対人葛藤: プラスの効果・バーンアウト
11	リーダーシップ1: 偉人論・特性論
12	リーダーシップ2: PM理論・ライフサイクル理論
13	上司と部下の関係構築: 投資モデルの援用
14	職場での行動の獲得・学習: PDCAサイクル
15	まとめ

#### 評価

小テストあるいはミニレポート(計50点)、期末試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

## 授業外学習

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

指定しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

### 【推薦書】

山口裕幸/金井篤子(編)・「よくわかる産業・組織心理学」・ミネルヴァ書房

田尾雅夫(編)・「組織行動の社会心理学」・北大路書房

小口孝司/楠見孝/今井芳昭(編)・「仕事のスキル」・北大路書房

原マサヒコ・「トヨタのPDCA」・あさ出版

科目名	性格心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe246		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科における生活科目領域の科目です (他学科開放あり)。心理学を初めて学ぶ人を対象として、人を理解する方法として「性格」を学びます。

#### 科目の概要

一般社会の中で広く使われる日常語としての「性格」は、各種メディアが日々提供する「血液型性格診断」や「各種チャート式性格診断」を通じて多くの人々に慣れ親しんでいます。しかし、正式な学問としての「性格心理学」からは遠くかけ離れた存在です。そこで、「性格とはなにか?」からスタートし、「作られ方」「影響」「病との関係」「問題行動との関係」など、「性格」を学術的に学びます。

#### 学修目標 (= 到達目標)

本講義では、一般で得られる「性格」と、学問である「性格心理学」との差異を理解し、最終的には日常の言動を性格心理学の観点から説明できるようになることを目指します。

内容	
1	イントロダクション ( 講義内容の説明 )
2	性格とは何か ( いわゆる “ 性格 ” というものを考える )
3	性格と人格-1- ( 科学的な考え方を学ぶ )
4	性格と人格-2- ( 古代から現代までの理論から考える )
5	性格と人格-3- ( 代表的な性格理論を学ぶ )
6	性格の作られ方-1- ( 性格形成論を学ぶ・前編 )
7	性格の作られ方-2- ( 性格形成論を学ぶ・中編 )
8	性格の作られ方-3- ( 性格形成論を学ぶ・後編 )
9	性格の影響-1- ( 自分と周囲の人たちとの関係を考える : 対人コミュニケーション方法 )
10	性格の影響-2- ( 自分と周囲の人たちとの関係を考える : 適応と不適応 )
11	性格と適正 ( 趣味・仕事と性格の関係を学ぶ )
12	性格と健康 ( 病気と性格の関係を学ぶ )
13	性格の異常 ( 問題行動と性格の関係を学ぶ )
14	性格の理解と修正 ( みる・きく・はかる、心理検査法と心理療法のはなし )
15	総合まとめ

#### 評価

平常点 ( 通常講義内に課されるレポート他 ) を30点、筆記試験を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、再試験をおこなう。

公欠扱いになる病気（出席停止）・忌引き・交通機関による遅延等の試験欠席事由があり試験を欠席した場合は、追試を受験できます。

#### 授業外学習

【事前準備】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認する。

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井 豊 共著『性格心理学への招待[改訂版]』2003 サイエンス社

【推薦書】清水弘司 著『はじめてふれる性格心理学』1998 サイエンス社

【参考図書】講義中に適宜紹介します

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

#### 科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に身につけておくことは、4年間の学修の基盤を形成することである。授業は習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で対応していく。前半と後半に分け、確認テストを行い、テストの結果を踏まえ、コース選択を調整できるようにし、それぞれの心理学リテラシーを確実に向上させていく。

#### 学修目標 (= 到達目標)

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

#### 内容

1	授業の概要を説明する。学力テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、コース調整を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	<数学・補充> 数学の基礎的な内容を復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
14	
15	確認テストを実施する。テストの結果を踏まえ、今後の学修の進め方を検討する。

#### 評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。 合格点に満たなか

った場合は、再試験を行う。

#### 授業外学習

- 【事前準備】テキストの内容を確認し、自分自身の課題を明らかにする。。
- 【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】使用しない
- 【推薦書】随時授業中に紹介する
- 【参考図書】随時授業中に紹介する

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

#### 科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に身につけておくことは、4年間の学修の基盤を形成することである。授業は習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で対応していく。前半と後半に分け、確認テストを行い、テストの結果を踏まえ、コース選択を調整できるようにし、それぞれの心理学リテラシーを確実に向上させていく。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

内容	
1	授業の概要を説明する。学力テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、コース調整を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	<数学・補充> 数学の基礎的な内容をもう一度復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
14	
15	確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、今後の学修の進め方を検討する。

#### 評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。 合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

## 授業外学習

【事前準備】テキストの内容を確認し、自分の課題を明らかにする。

【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】随時授業中に紹介する

【参考図書】随時授業中に紹介する

科目名	子どもの発達と環境		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAe248		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活科目 専門科目

科目の概要

子どもは産まれた瞬間から、子どもを取り巻く環境と相互作用しながら発達していく。子どもの発達に重要な環境は、物理的な環境だけでなく、養育者をはじめとする身近な大人や仲間などの人的な環境、また、より包括的な社会環境や文化的背景など、幅広い。また、現代では子どもを取り巻く環境はめまぐるしく変化していつている。発達の過程と要因についての基礎的な理論を理解すると同時に、今日的な問題や最新の研究を取り上げながら、子どもの発達と環境との相互作用について考察することを目標とする。講義形式の授業を基本に、グループでの討論や発表を適宜取り入れる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 発達の過程と要因についての基礎的な知識や理論を学ぶ。
- ・ 子どもの発達と環境の相互作用に関する知見や考え方を知り、考察する
- ・ 現代における子どもの発達に対して問題意識を持って、発達に必要な環境について考える。

内容

1	人間の発達の特異性：子どもの発達をとらえる
2	子どもの発達における環境との相互作用
3	親子関係の発達：愛着とは
4	親子関係の発達：家族というシステム
5	現在の子育て事情：拡がる子育ての場
6	少子化社会の家族・地域
7	文化的背景と子育て
8	言語の発達と環境：前言語期
9	言語の発達と環境：言語の発生
10	言語の発達と環境：学校の中での言語
11	子どもの文化：遊びの中にある学び
12	メディアの影響と子ども
13	集団と遊び体験
14	子どもの発達における望ましい環境とは
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、小レポート・グループワーク40%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】自分なりに各回のテーマに関しての思いや経験について考えておくこと

【事後学修】授業で紹介した知見や考え方をふまえて、疑問点を調べたり、考察を深めたりすること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe349		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理専門科目における選択必修のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

#### 科目の概要

人間は五感を通して外界の情報を受け取り、その情報を脳で処理することにより、何らかの反応や行動に至っている。本講義では、その情報処理のプロセス ( 人間の記憶や注意、思考などの認知機能 ) について心理学的なモデルや理論を平易に解説する。授業では映像や簡易実験などを用いて、体験的に理解を深めると同時に、科学的視点を養うことを目指す。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

評価基準となる学習到達目標は、

- 1) 認知心理学の基礎となるモデルや理論について、日常的な行動との対応を説明できるようになること
- 2) 実証的な認知心理学研究法を理解すること

学生は自身の卒業研究におけるデザイン ( 研究方法、実験計画 ) など意識しながら学んでほしい。

#### 内容

1	ガイダンス
2	認知の神経的基盤
3	視覚の神経的基盤
4	視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
5	視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
6	認知心理学研究法
7	注意 - 選択的注意
8	注意 - 注意と記憶
9	記憶と学習 - 記憶の構造と理論
10	記憶と学習 - 記憶のプロセス
11	知識表現 - 意味ベースの知識表現
12	知識表現 - 知覚ベースの知識表現
13	思考と言語 - 演繹的推論
14	思考と言語 - 帰納的推論
15	まとめ

#### 評価

中間試験 ( 2回、計50点 )、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント資料を使用する。参考図書・推薦図書と併せて、授業時に適宜図書を紹介する。

科目名	恋愛と結婚の科学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAe350		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の領域でも親密な異性関係の進展と崩壊について考える。社会心理学の基礎的知識がある程度必要であり、対人関係の心理学、コミュニケーションの心理学などとの関連がある。

社会心理学は、人と人との関係について扱う心理学の分野の1つである。青年期になると同性から異性へと親密な関係が拡大し、恋愛関係への関心も高まっていく。しかし、異性との親密な関係には同性との関係とは異なるルールやコミュニケーション方法、進展と崩壊のプロセス等が存在することが明らかになっている。先行研究で明らかとなっているこれらの結果を実証的なデータを示しながら紹介し、恋愛関係が持つ様々な機能について解説する。また近年、若者の恋愛離れに始まり、未婚や非婚率も増加している。近年の結婚に関する価値観の変化や夫婦関係で生じる問題等についても解説する。

親密な異性関係について、社会心理学の分野はどのようにアプローチし、何が明らかになっているのか、また何が問題として残されているのか、客観性に基づいた説明ができるよう理解を深めてほしい。恋愛関係や夫婦関係に関する興味は尽きないが、実際にその関係内で生じる現象を心理学的に明らかにすることは非常に難しい。また、異性に対する不安や親密な関係を築くことへの面倒さから、恋愛から離れがちになっている世代を対象とした講義であり、知識が実生活での関係作りに役立つことを望む。

#### 内容

1. ガイダンス：恋とは何か？愛とは何か？
2. 愛を測定する方法
3. 恋愛のタイプと相性
4. 恋に落ちる！
5. 恋する脳 - 男女差に着目して -
6. 告白の成功率
7. 恋する2人の独特な世界
8. 中間テスト
9. 恋愛関係が破綻する時
10. 恋愛関係崩壊と新しい関係の探索
11. 近年の結婚事情 - 結婚する？しない？
12. 結婚生活と仕事
13. 夫婦関係と子育て
14. 夫婦関係のダークサイド (DV、離婚等)
15. まとめ

#### 評価

中間テスト (30点) 及び期末試験の成績 (70点) で総合的に判断する。ただし、2/3以上の出席がなければ、単位は

取得できない。

#### 授業外学習

【事前準備】社会心理学の基礎的知識を、これまで受講した授業の教科書やプリントを用いて復習する

【事後学修】恋愛や結婚に関するニュースやデータ等を収集し、授業で解説された内容の理解を深める

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストを購入する必要はない。適宜プリントを配布しながら、講義を進める。ただし、参考書などについては授業を進めながら紹介していく。

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAe351		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理学科の選択科目である。

心や意識、記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく、

身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって、からだ」なのである。

#### 科目の概要

毎週1つのトピックについて、実習を交えながら講義を進める。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

#### 学修目標

身体と心、脳に関する話題を概観しながら、人間を観る眼をより柔軟にしたい。

心について深く考えるには、身体運動の基礎知識が不可欠である。

1)身体が動く仕組み(筋骨格系から脳までの機能と構造)、2)運動制御と運動学習の仕組み、3)身体運動と心理学との関わりを学び、改めて人間を見直し、心の多様さについて考える。

#### 内容

進度に応じて新たな話題を盛り込むが、昨年度の授業内容とキーワードは以下の通り：

- 1.イントロダクション(心と身体と環境とは「くっついて」いる。心のくっつける働きと分ける働き)
- 2.骨の構造と筋肉の動き：筋肉のつき方、股関節の理解、二足歩行の進化学
- 3.力を発揮する仕組み：腕ずもう必勝法、外力と反射、腱
- 4.カロリーの出し入れと動的平衡：カロリーの摂取と消費。分子生物学からみた「生きる」こと
- 5.脳構造のイロハ：BrainVoyager Tutorを用いた脳構造の理解、脳の階層性、脳部位の概略、神経細胞
- 6.脳の処理過程を楊枝で実習する：ニューラルネットでおやつ代計算
- 7.脳の感覚運動系：運動野の階層、運動・感覚ホムンクルス
- 8.環境とやり取りする脳：遠心コピー(自分でくすぐってもくすぐったくないのはなぜ?)
- 9.気分・性格と運動：POMSで気分を測定、性格の特性論によるスポーツ参加者の分類、社会的学習理論
- 10.運動と動機づけ：外発的vs内発的動機づけ、帰属と再帰属訓練(やる気とその維持)
- 11.運動と記憶：記憶の分類、文脈干渉効果、記憶の定着過程(記憶が染み込むには時間がかかります)
- 12.運動学習入門：運動学習の過程(「わかる」と「できる」は違うのです)、フィードバックと汎化
- 13.運動の発達：PHV年齢と最適な運動内容。幼児の運動能力と運動指導
- 14.ゲスト講師に伺う女性の身体と環境
- 15.まとめ

今年度はスポーツ心理学の分野に関する講義を2回分、増やす予定である。

内容の詳細は現在作成中であるので、上の講義内容はあくまで「昨年実績」に過ぎない。

純粋な講義でなく、簡単な実験や演習を折り込みながら授業を進める。各講義の後に簡単なエッセイを課すので、講義内容について積極的に考え、自分なりの考えをまとめることを求める。優れたエッセイは次回授業で紹介し、討議の材料にする。

## 評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【推薦書】

ジャービス著，工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については、授業の中で随時紹介する

科目名	知覚心理学		
担当教員名	上田 祥代		
ナンバリング	KAe352		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理選択科目における選択必修の一つである。心理学の中でも、基礎的な心のはたらきについて扱う。

#### 科目の概要

知覚とは、感覚器官を通して外界からの情報を受け取り、認識する機能である。本講義では、私たちが普段どのようにして世界を知覚しているのかについて理解を深めるため、五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）の基本的なはたらきと、その統合のされ方について概観する。各トピックごとに簡単なデモンストレーションを行い、「心の世界」が知覚によって成り立つものであり、物理的な世界とは異なるものであることについて気づきを促す。そして現象について理解を深め、自ら考えることを目指す。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- 1) 五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）に関わる基本的な神経構造について理解する
  - 2) 人間の知覚特性や、それを測定する実証的方法について理解する
- 現象やデータから知覚のはたらきを考察できるようになってほしい

#### 内容

1	イントロダクション
2	認知神経科学入門
3	視覚の基礎
4	色の知覚
5	運動の知覚
6	空間の知覚
7	オブジェクト・顔の知覚
8	注意とシーンの知覚
9	聴覚の基礎
10	音楽の知覚
11	触覚の基礎
12	味覚の基礎
13	嗅覚の基礎
14	多感覚の統合
15	まとめ

#### 評価

中間試験 2 回 ( 計 40 点 )、期末試験 60 点とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

## 授業外学習

- 【事前準備】毎回、授業内容に関連した配布プリントがあるのでそれを読んでおく
- 【事後学修】授業内容のまとめのプリントの課題（穴埋めや記述）を行う

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】指定しない。配布資料で行う。
- 【推薦書】授業内で適宜指示する
- 【参考図書】授業内で適宜指示する

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAf157		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

### 科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

## 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読んでおくこと

【事後学修】授業で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直す

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	子どもの生活と保健		
担当教員名	鈴木 雅子、齋藤 千景		
ナンバリング	KAf358		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置付けられた選択科目である。

#### 科目の概要

本講義は、子どもの健康を守る生活や環境について、前半を胎児期から乳児期、後半を幼児期から児童期に分けて学ぶ。この講義を受講することで、妊娠時から子どもの健康を守る視点を持ち、子どもの成長発達に伴う身体的特徴や病気・事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケアについて習得することができる。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・胎児期から児童期までの発育・発達について理解できる。
- ・基本的な子育ての技術を習得できる。
- ・子どもが健康に成長できる環境について考えることができる。
- ・子どもの病気や事故について理解し、対応ができる。

#### 内容

本講義では、実技実習があるため受講生が多数の場合は、受講人数を制限（50名以内）します。

1	オリエンテーション、子どもの生活と保健とは [齋藤・鈴木]
2	胎児期から乳児期の成長発達(神経・身体的機能) [鈴木]
3	乳児の成長発達と生活（抱っこ・沐浴実習） [鈴木]
4	乳児の成長発達と生活（沐浴実習） [鈴木]
5	沐浴実習後グループワーク [鈴木]
6	妊娠・出産を取り巻く環境(いまどきの妊娠と出産事情) [鈴木]
7	育児を取り巻く環境(イクメンと虐待) [鈴木]
8	前半部まとめ [鈴木]
9	幼児期から児童期の成長発達 [齋藤]
10	幼児・学童を取り巻く諸問題(グループワーク) [齋藤]
11	幼児・学童を取り巻く諸問題(グループワーク) [齋藤]
12	幼児・学童を取り巻く諸問題(発表) [齋藤]
13	幼児期・学童期に多い病気とその対応 [齋藤]
14	幼児期・学童期に多いケガとその対応 [齋藤]
15	保健サービスとその活用、まとめ [齋藤]

#### 評価

グループワーク等を行うので積極的に参加し意欲的に取り組むこと。講義への参加状況20%、レポート80%とし、総合

評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】次週の内容について経験をふまえて考えておくこと。

【事後学修】授業で得た知識をふまえて疑問点を調べたり、考察を深めたりすること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない 適宜プリントを配布する

【推薦書】大西文子編著「子どもの保健演習」中山書店

科目名	学校保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf161		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

学修目標として、

学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。

学校保健における基礎的事項について理解する。

学校保健における養護教諭の役割を理解する。

以上3点をあげる。

内容	
1	学校教育と学校保健について
2	学校保健の意義と関連法規について
3	学校保健の領域構造と学校保健関係者について
4	学校保健計画の法的根拠と意義、内容について
5	学校における保健教育について
6	保健指導の進め方について
7	健康相談の意義と進め方について
8	養護教諭が行う健康相談について
9	健康観察の意義と法的根拠について
10	健康観察の機会と方法について
11	健康診断の意義と法的根拠について
12	健康診断の種類と項目について
13	健康診断の計画と実施について
14	健康診断の事後措置について
15	まとめ

#### 評価

筆記試験 (小テストを含む) 7割、通常の授業への参加度3割により評価とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前準備】 次回の内容について課題を出す。1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】 学修内容について1時間程度の復習 (まとめ) が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】養護教諭のための学校保健＜第14版＞ 出井美智子他 少年写真新聞社

【推薦書】授業中に適宜示す

科目名	免疫学		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング	KAf163		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

人間発達心理に関する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー・免疫学講義 (日本図書館協会推薦図書)」によって学ぶ。

##### 科目の概要

免疫とアレルギーについて教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド (PowerPoint) で説明する。尚使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク【フォルダUドライブ】に開示して学習の参考に供する。

##### 学修目標 (= 到達目標)

免疫とアレルギーの基礎を理解することを学修目標とする。

1. 高校で学んだ免疫とアレルギーの知識を整理する。
2. 免疫とアレルギーの歴史について理解する。
3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶ。
4. 感染症とワクチンについて理解する。
5. 免疫異常とアレルギー型別について学ぶ。

#### 内容

1	I部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2	自然免疫システム
3	免疫を担当する器官と細胞
4	獲得免疫システム
5	サイトカイン・エフェクター細胞
6	感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7	II部：免疫異常・アレルギー。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患
8	アレルギー・アナフラキシー
9	アレルギー対策・予防・検査法
10	アレルゲン
11	花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー
12	アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
13	小児アレルギー・気管支喘息
14	食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス
15	職業アレルギー・心理免疫アレルギー。まとめ。

#### 評価

中間筆記テスト ( 40点 )、期末筆記テスト ( 40点 )、授業態度 ( 20点 ) によって評価を行い、総合評価60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う

#### 授業外学習

【事前準備】「チェックポイント」の全体把握。セルフチェック問題集A選択問題予習。学内LANパワーポイント予習。  
【事後学修】「復習」の内容把握。「研究課題」解答。セルフチェック問題集B記述問題解答。学内LANパワーポイント  
解読。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（2007）  
【推薦書】扇元敬司 訳、K.Vedhara, M. Irwin著「心理免疫学概論」川島書店（2008）  
扇元敬司 著「やさしいバイオのための微生物学」講談社（2012）  
扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

科目名	栄養学		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング	KAf064		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修科目です。養護教諭が生徒の健康管理を行う上で必要な栄養学・食品学の基礎を学修します。

##### 科目の概要

この授業では栄養の概念、ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類と生理機能について学びます。さらに成長、発育、加齢による人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について理解し、各ライフステージにおける望ましい食事のあり方を学修します。

##### 学修目標

1. 食品とそれに含まれる栄養素の性質や機能に関する基礎知識を修得する。
2. 成長、発育、加齢に伴う心身機能の変化と栄養の基礎を理解する。
3. 健康の保持・増進と疾病の一次予防における食の重要性を理解する。

#### 内容

1	栄養の概念・栄養と健康
2	食品の成分と機能 1：糖質
3	食品の成分と機能 2：脂質
4	食品の成分と機能 3：タンパク質
5	食品の成分と機能 4：ビタミン
6	食品の成分と機能 5：ミネラル
7	からだのしくみと栄養素の働き 1：消化器系の構造と機能
8	からだのしくみと栄養素の働き 2：栄養素の消化・吸収
9	日本人の食事摂取基準
10	ライフステージと栄養 1：妊娠（胎児）期・授乳期の栄養
11	ライフステージと栄養 2：乳児期・幼児期の栄養
12	ライフステージと栄養 3：学童期・思春期の栄養
13	ライフステージと栄養 4：成人期の栄養
14	ライフステージと栄養 5：高齢期の栄養
15	まとめ

#### 評価

レポート・小テスト（30%）、定期試験（60%）、授業への取り組み（10%）により評価を行い、総合評価60点以

上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に教科書を読み、授業内容を把握してください。日頃から食に関心をもって生活して下さい。

【事後学修】教科書や授業で配布したプリントをもとに、ノートをまとめましょう。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小林修平編著「健康づくりの栄養学」建帛社

【推薦書】脊山洋右，廣野治子編集「コンパクト栄養学」南江堂

【参考図書】厚生労働省「日本人の食事摂取基準2015年版」第一出版

科目名	解剖生理学		
担当教員名	久野 節二		
ナンバリング	KAf165		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 :

ヒトの心理的活動を生み出す脳や神経に加え、これらの活動を維持するための人体の仕組み全般について講義する。他の専門科目の内容を理解する上で必要な人体に関する基礎的知識を習得できる。

科目の概要 :

ヒトの身体を構成する細胞、組織、器官および器官系の構造と空間的位置関係、くわえて各種の構造においてはたらく生理機能物質について解説し、ヒトの生命活動における各器官の役割と機能的相互関連を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標) :

- ・ヒトの身体の基本構成について、構成分子、細胞、組織および器官のレベルで構造的に理解する。
- ・器官の構造的特徴から、機能系としての器官系の生理的意義を理解する。
- ・各器官系の生理機能をもとに、器官系の相互的な機能関係を知ること、1 個体としてのヒトの生存を可能にする人体の構造と機能の全体像を理解する。

内容	
1	解剖生理学の基礎：分子、細胞、組織、器官、器官系
2	骨格と筋 1：骨組織、関節、骨格筋、体幹と上肢の筋
3	骨格と筋 2：下肢と頭頸部の筋、筋の種類と運動
4	神経系 1：ニューロン、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能
5	神経系 2：脳および脊髄の構造と機能、運動情報が伝わる経路
6	感覚器：感覚、感覚情報が伝わる経路
7	内分泌系：ホルモン、ホメオスタシス、内分泌腺の構造と機能
8	循環器系 1：心臓の構造と血液循環
9	循環器系 2：血液の組成と機能、リンパ液と免疫
10	消化器系 1：消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸）および膵臓の構造と機能
11	消化器系 2：消化管（小腸、大腸）および肝臓と胆嚢の構造と機能
12	呼吸器系：気道および肺の構造と機能
13	泌尿器系：腎臓および尿路の構造と機能
14	生殖器系：精巣および卵巣の構造と機能
15	まとめ

評価  
 まとめの最終課題レポート ( 5 0 点 )、指定回の授業内容についての課題レポート ( 2 0 点 ) および授業への参加度 ( 3 0 点 ) により評価する。総合評価 6 0 点以上を合格とする。ただし、評価を受けるには 3 分の 2 以上の出席が必要。6 0 点未満の場合は、新規課題レポートの提出が求められる。レポート作成では、教科書やウェブサイトにかかれた文章の単なる転記ではなく、自分の文章で記述すること。

## 授業外学習

【事前準備】各回の受講前に教科書の該当ページをよく読んでおく（45分程度）。

【事後学修】講義後に公開する講義内容を参考に各自まとめ、理解できていない項目を明確にし、自己学習するとともに、不明な点は講義後等の時間を活用して積極的に質問する（45分程度）。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】坂井建雄、岡田隆夫共著・解剖生理学・医学書院、第9版、ISBN:978-4-260-01826-5

【推薦書】？ 佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之編訳、トートラ人体解剖生理学、丸善出版

？ 内田さえ・佐伯由香・原田玲子編集、人体の構造と機能、第4版、医歯薬出版

【参考図書】なし

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf466		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている選択科目である。 教員免許  
取得希望者、社会福祉主事任用資格取得希望者を中心として授業を進める。

#### 科目の概要

公衆衛生は「公の衆の生を衛る」という意味であり、集団における健康を社会や環境との関連の中で、疾病の予防と健康の保持・増進を図るためにはどうするかを考えていく学問である。

健康と疾病との関係について予防対策を軸に、関連統計情報や社会的報道等を資料として、教員や社会福祉主事になった際に応用できる身近な学問としての公衆衛生学を展開していく。

今年度はカリキュラム移行期のため受講生が多数となる事が予想されます。各自が積極的に授業に参加するようにしてください。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- ・健康とはどのような状態であるか説明できる。
- ・健康づくりのための予防医学の方策を具体的に説明できる。
- ・保健統計の数値とその意義を適切に説明できる。

内容	
1	オリエンテーション 公衆衛生学序論
2	保健統計
3	保健統計
4	疫学
5	疾病予防と健康管理
6	疾病の予防
7	疾病の予防
8	健康政策と衛生行政、筆記試験
9	環境保健
10	環境保健
11	母子保健・学校保健
12	産業保健
13	高齢者保健
14	国際保健医療、筆記試験
15	試験の解説、まとめ

## 評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。授業への参加度30%、2回の筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

## 授業外学習

- 【事前準備】日頃から新聞やニュースなどの官公庁が発表する公衆衛生データを読んでおくこと。
- 【事後学修】授業の理解と定着のために毎授業ごとに短時間の復習が必要。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】鈴木庄亮・久道茂編 シンプル衛生公衆衛生学2015 南江堂  
講義に応じたプリントをその都度配布する。
- 【推薦書】厚生労働統計協会「国民衛生の動向2015/2016版」
- 【参考図書】高校で使用した保健体育科の教科書

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf367		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護援助の基礎的知識を学習する。

学修目標：

- 1．看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
- 2．看護における観察の意味がわかる。
- 3．日常生活において、人間のニーズ充足のための看護援助が理解できる。
- 4．体調の不調を訴えた際の基本的な看護援助が説明できる。

内容

\* 後期に「看護援助方法」の履修を予定している学生は、本科目単位を修得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

1	看護の本質と看護の対象
2	人間の尊厳と健康
3	疾病予防と看護
4	看護における観察
5	日常生活における看護 安楽と環境調整と睡眠・休息
6	日常生活における看護 栄養・食事と排泄
7	日常生活における看護 身体の清潔保持
8	看護学概論（総論）のまとめ
9	不調を訴えた人への看護 電法
10	不調を訴えた人への看護 発熱、痰・咳、呼吸困難のある人への看護
11	不調を訴えた人への看護 嘔気嘔吐、排便障害、脱水のある人への看護
12	不調を訴えた人への看護 浮腫、腫脹、褥瘡、発疹のある人への看護
13	不調を訴えた人への看護 めまい、疼痛のある人への看護
14	救急対応と看護
15	看護学概論（各論）のまとめ

評価

レポート（20点）、筆記試験（80点）により評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に、各單元ごとに教科書を読んでおいて下さい。健康に関するTV番組を見るようにして下さい。

【事後学修】各單元ごとに教科書・配布資料をまとめたノート等を作って下さい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】萱場一則編著 『暮らしの看護』建帛社

【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』 ヌーヴェルヒロカワ

坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』 ヌーヴェルヒロカワ

薄井坦子著 『科学的看護論』 日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf368		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられ、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。また、他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を発揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションとは
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
3	障がいの概念とリハビリテーション
4	障がいの受容過程
5	ライフサイクルとQOL
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 発達障がい ( 広汎性発達障がい )
10	子どものリハビリテーション 発達障がい ( 学習障害と注意欠陥/多動性障害 )
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各単元について、教科書を事前に読んでおきましょう。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにしてください。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておきましょう。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには 』 中央法規 492.9/R

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
3	バイタルサイン（体温・意識）
4	バイタルサイン（測定実習）
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法）
10	感染防御（消毒薬の用途）
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	搬送と救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房  
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房  
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社  
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

- 1．バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
- 2．フィジカルアセスメントが適切に行える。
- 3．感染防御の基礎について説明できる。
- 4．急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
3	バイタルサイン（体温・意識）
4	バイタルサイン（測定実習）
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法）
10	感染防御（消毒薬の用途）
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	搬送と救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房  
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房  
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社  
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	家庭の応急手当		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf371		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間発達心理学科専門科目。

科目の概要

日常生活の中で遭遇する傷病に対して、一市民として実践できる応急手当について学びます。

学修目標（ =到達目標 ）

- ・一次救命処置が実践できる。
- ・身近で遭遇する可能性の高い傷病に対して、適切な応急手当の方法が説明できる。

内容

授業を効果的に展開するために、人数制限を設ける場合があります。

実技演習を伴う授業ですので、授業に参加する場合には、パンツスタイルが望ましい。

グループワークの形式もとり、ロールプレイも実施する。

1	応急手当の体験を語る
2	応急手当の基本・一次救命処置
3	事故・ケガの応急手当 打撲
4	事故・ケガの応急手当 筋肉・骨・関節のケガ
5	事故・ケガの応急手当 溺水、窒息、気道異物、誤飲・誤嚥
6	事故・ケガの応急手当 熱傷・化学薬品による熱傷、中毒
7	事故・ケガの応急手当 身近なケガ
8	急病時の応急手当 倒れる・意識障害・昏睡
9	急病時の応急手当 胸痛・頭痛・けいれん・めまい・麻痺しびれ、呼吸困難
10	急病時の応急手当 腹痛・嘔気嘔吐・下痢便秘、吐血下血
11	急病時の応急手当 発熱、熱中症
12	急病時の応急手当 子どもの応急手当にて焦点をあてて
13	事故予防対策
14	包帯法・搬送
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20%）、グループワークによる取組（40%）、レポート（40%）とし、総合評価60点以上を合

格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】日頃から応急手当てに関連したTV番組を見ておきましょう。

【事後学修】授業で実践し学んだことを振り返り、レポートとして提出してもらいます。また、地域の消防署で実施している救急講習を受講することをお勧めします。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の中で指示します。

【参考図書】萱場一則『暮らしの看護』建帛社